

CASBEE[®]新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築（簡易版）2008年版
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

1. 建物概要

建物名称	山田小学校校舎改築	
建設地	西区	
用途地域	第一種住居地域, 法第22条地	
建物用途	学校,	
竣工年	2011年7月 予定	
敷地面積	7,458.00 m ²	
建築面積	3,926.23 m ²	
延床面積	3,806.65 m ²	
階数	地上4階	
構造	S造	
評価の段階	実施設計段階評価	
評価の実施	2010年5月20日	

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{56}{33} = 1.6$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B*: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3
			維持管理	4
			更新性	3
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.4		耐震・免震	4
			信頼性	3
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4
			自然エネルギー利用	3
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4
			リサイクル材の使用	5
			再利用可能性向上	5
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	3.5		生物環境の保全・創出	3
			敷地内温熱環境の向上	4
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	3
			地域性への配慮、快適性の向上	4

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

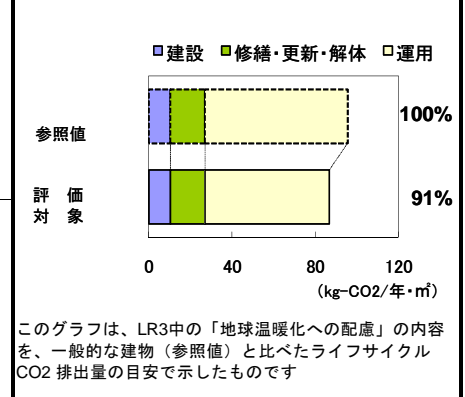
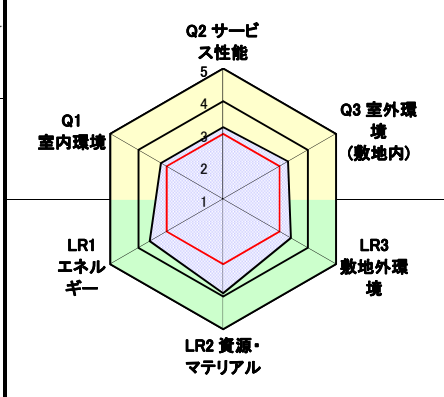
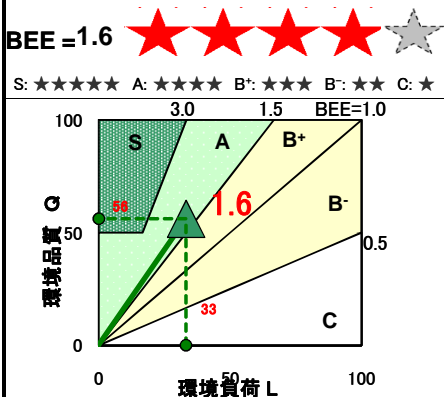
新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。

- ・高断熱・高遮熱・省エネ化による温熱環境の向上を図った。
- ・緑地を多く確保することによる温熱環境の向上・防風の要素とともに心理的効果を図った。
- ・内装材に地場産杉材の使用や木製間仕切部材に集成材使用など木質素材を多用することにより、資源の有効利用を図るとともに 人に手で造り上げることで温もりを感じられるよう心理的効果を図った。

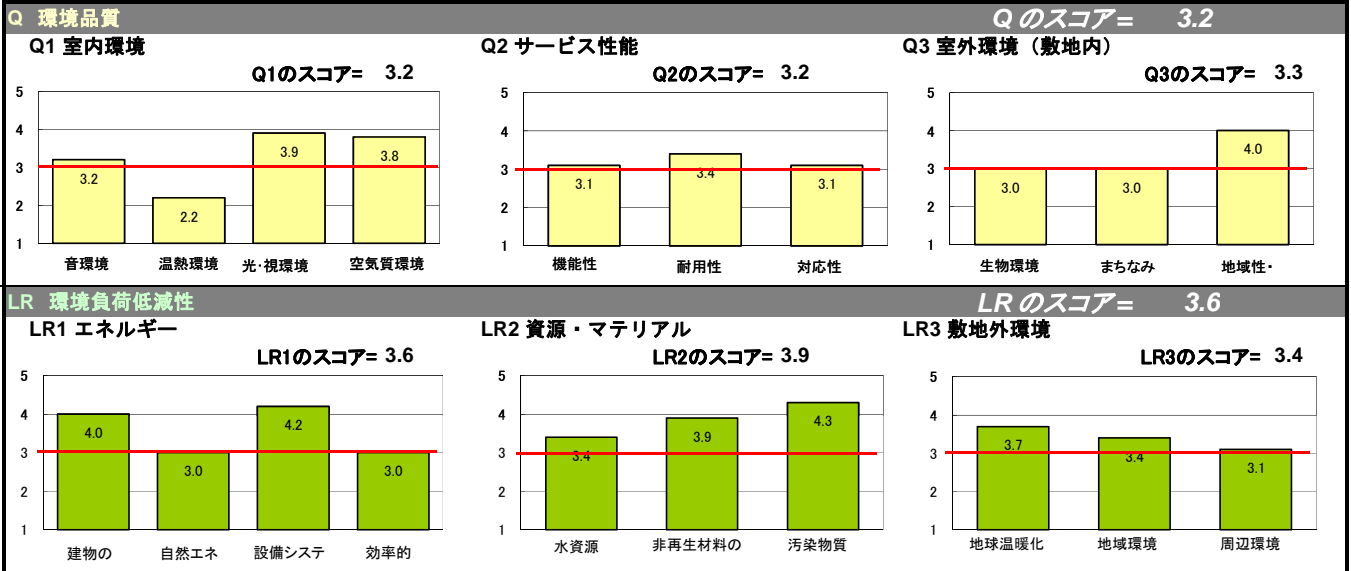
CASBEE[®]新潟 | 評価結果内訳 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.1)

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート) | **2-2 大項目の評価(レーダーチャート)** | **2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)**



2-4 中項目の評価(バーチャート)



2-5 設計上の配慮事項

総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> ・高断熱・高遮熱・省エネ化による温熱環境の向上を図った。 ・内装材に木質材の多使用による木質空間の与える心理的効果を図った。 ・緑地を多く確保することによる防風要素とともに心理的効果を図った。 		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> ・界壁や開口部の遮音性を高めるとともに、教室やオープンスペースの吸音性を考慮した天井仕上材とすることで、音環境の向上を図った。 ・F☆☆☆☆の建材の未使用や自然換気しやすい開口部を設置することで空気質実 	<ul style="list-style-type: none"> ・木質素材の多使用による心理的効果を図った。 ・耐震壁を内部空間に設けない構造計画を行い、将来における空間利用の自由度を高める計画とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化率を高めることにより敷地内の温熱環境の向上を図った。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> ・将来、屋上にソーラーパネル設置可能な構造計画とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地場産杉材の間伐材利用の木質素材を多利用することにより、資源の有効利用を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸透性舗装材の利用により、敷地外への急激な排水の抑制を図った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される